

神社近くの道端にベタンと座り込み、カワウを見張っているのは？



オイラがこの島に来たのは、五年前。どんどん勢いを増すカワウに憤った「びわ湖かつぱ村」の村長加藤万兵さんが、カワウを追い払ってこいと、湖の見えるこの場所に据えつけてくれた。そう、オイラはカッパさ。

「水の神河童」は、「鵜が最も恐れるとされ」とか。それだけじゃなく、「湖国の繁栄、豊作、湖上交通の安全を見守り、琵琶湖の水を汚染から守る」ことを至上命令としてここに在るわけなんや。

ところが、「そんなひょうきんな顔では、カワウも恐がらないわね」という声もチラホラ。オイラなりに一生懸命、ニラミをきかしてつもらんやけどね……。

ちなみに、都久夫須麻神社拜殿から、願い事を書いたカワラケというお皿を投げたりしてけど、あれは、カッパの頭のお皿とは関係ないす。

高下駄をはき、苦痛の表情で岩の上に腰かけているのは？



「死んでも竹生島を守ります」と、爪をばいて誓ったという律儀者は誰？

それは私め、名を行尋坊という天狗である。宝蔵寺の開基・行基菩薩の行を片時も離れず助け、島の守護を誓うあかしとして爪を捧げたのだ。その時の爪は、宝物館に大切に保管されておるぞ。

また、早崎の集落のはずれの大鳥居のそばに石碑があるのだが、その裏側が三方所欠けておる。鳥の天狗がこの石碑を運ぼうとしたとき、石が欠けてしまったという話も残っておる。

天狗といえば、そのころ島にはたくさん住んでおってな、なかには人を脅かすような悪さをしたものもいるそうじゃ。今も、拙者の子孫が島にいるかって？ それは、ご自分の目で確かめてくださいな。



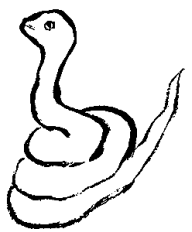
早崎にある一の鳥居の裏側は、三方所欠けている。



いいえ、苦しんでいるわけではありません。修験道の祖とされる私は、役小角（役行者）。都久夫須麻神社近くのお堂の中におります。竹生島北側の霊窟は行場であるといわれ、私もそこで苦行したのですが、弁才天の霊験を得ました。

その時手にしていた一本の竹の杖を地に立て、この地が仏教興隆の地であれば生長すべし、と念じたところ、竹は二股に裂けて、枝葉をつけました。宝物館に展示されている「二股の竹」は、そのときのもので、この竹が竹生島の名の由来になってもいるのだそうです。

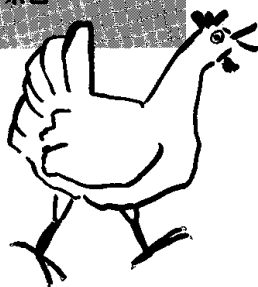
弁天さまの頭の上に乗っかる不届き者は？



アタシは、已さま。弁天様の使者として、いつもそばにいるの。ただの蛇タンとは違うんだから。已さまはね、財宝の神様として、昔っから大事にされてきたのヨ。ほら、どこのおウチにも、その家の已さまが棲み着いて、守ってくださるって、おばあちゃんから聞いたことなあい？ 竹生島にも、白蛇を祀るお堂があつて、たくさんの方がお参りしてくださるワ。

観縁センセイがおっしゃってたけど、子どものころ、早崎の「一の鳥居」の根元には白蛇が棲んでると教えられ、よく隙間を覗き込んだらそうよ。今もいるのかな。

社務所のそばの小屋のなかにいる茶色くて丸っこいのは？



そりやもう、小屋で飼われているっていえば、ワタシたちチャボちゃんよ。

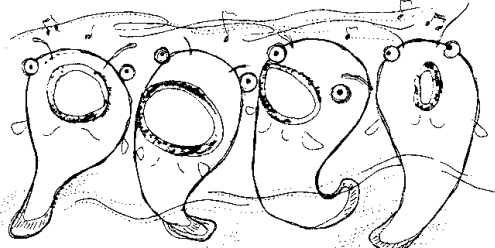
伊勢神宮でも飼われているように、ニワトリは神さまのお使いなの。大事にしてね。コケツ。

竹生島のまわりに住むという肉食性の大物は？

大物だったって、たかが全長一尺強、重さ二十*ほどなんだから、怪物よばわりしないでほしいナ。それに、肉食だといってもコアエやフナなんか好物なわけで、なにも人間サマを喰おうってんじゃないからな。

ボクはビワコオオナマズ。びわ湖にしか住まない、この湖のまじ。竹生島の回りには、昔っから、ナマズの出でくる伝説がけっこう残っているんだね。弁天さまに歌と踊りをほめられたナマズたちや、島の底で竜神さまを守っているナマズたち。それに、宇治川から竹生島まで首を伸ばす大蛇を退治した、竜神さんの化身の大なまずなど。

竹生島の周りは深くて水温も低いので、底まで潜ってみようなんてことは、やめといた方がいいけど、そのうち、どこかでビョッココリお会いできるかもネ。



竹生島の災害

貞永元年（一一三三） 九月十四日 火災
 嘉元二年（一一〇四） 八月七日 大嵐
 正中元年（一一三四） 十一月二十八日 地震
 『近江国竹生島崩埋湖』（本朝地震考）

享徳二年（一四五三） 一月二十二日 火災
 『享徳二年正月二十二日、亥刻竹生島常楽坊より火を発し、宝殿以下十四力所、僧舎の内三十餘宇、数体の仏菩薩、一切経律論等多くを焼失す。享徳四年勸進帳』（東浅井郡志）
 永禄元年（一五五八） 十月十一日 火災